


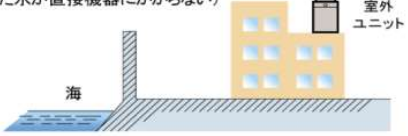
設備工事情報シート	その他	V-A-2	制定	2016年3月1日
			改訂	
V. 設備情報	耐塩害仕様について (エアコン室外機)		日立アプライアンス編	

## 1. 目的

耐塩害仕様は、日本冷凍空調工業会標準規格 J R A 9 0 0 2 (空調機器の耐塩害試験基準) に基づいている。一例として、パッケージエアコン室外機ユニットを設置する際の耐塩害仕様の選定について示す。

## 2. 耐塩害仕様の目安

### ■据付場所について

	耐塩害仕様	耐重塩害仕様
据え付け場所	潮風は当たらないが、その雰囲気にあるような場所 	潮風の影響を受ける場所 (ただし、塩分を含んだ水が直接機器にかからない) 
設置場所条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>室外ユニットが雨で洗われる場所</li> <li>潮風の当たらない場所</li> <li>室外ユニットの設置場所から海までの距離が約300mを超え1km以内にある場所</li> <li>室外ユニットが建物の影になる場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>室外ユニットに雨があまりかからない場所</li> <li>潮風が直接当たる場所</li> <li>室外ユニットの設置場所から海までの距離が約300m以内にある場所</li> <li>室外ユニットが建物の表(海岸面)になる場所</li> <li>室外ユニット設置場所付近のトタン屋根、ベランダの鉄製部の塗り替えなどが多い場所</li> </ul>

### ■海岸からの設置距離目安(設置環境により条件が変わります)

#### 1. 直接潮風の当たるところ

	300m	500m	1km
①内海に面する地域※	耐重塩害	耐塩害	—
②外洋に面する地域	耐重塩害	耐重塩害	耐塩害
③沖縄、離島	耐重塩害	耐重塩害	耐重塩害

※瀬戸内海など

#### 2. 直接潮風の当たらないところ

	300m	500m	1km
①内海に面する地域※	耐塩害	—	—
②外洋に面する地域	耐重塩害	耐重塩害	耐塩害
③沖縄、離島	耐重塩害	耐重塩害	耐重塩害

※瀬戸内海など

## 据付上および維持管理上のご注意

### ■据付上の注意(維持管理について)

JRA耐塩害仕様機・耐重塩害仕様機は素材や塗装内容を強化していますが、腐食に対して万全ではありません。このため、次のような据付計画と保守を行うことで防食効果を高める必要があります。

- 海水飛沫および潮風に直接さらされることを極力回避するような場所へ設置してください。
  - 機器の設置は建物の風下になしてください。
  - やむを得ず海岸面に機器を設置する場合でも、防風板を設けて直接潮風が当たることを避けてください。
  - 据付方向に注意してください。(海岸線に平行と直角では腐食度合いが異なります)
- 外装パネルに付着した海塩粒子が、雨水によって十分洗浄されるように配慮してください。
- 室外ユニットソコベースへの水の滞留は、著しく腐食作用を促進させるため、ソコベース内の水抜け性を損なわないよう傾きなどに注意してください。
- 海岸地域への据付品については、付着した塩分などを除去するために定期的な水洗いを行ってください。
- 水はけの良い場所に設置してください。特に基礎部分の排水性を確保してください。
- 据え付け、メンテナンスなどに付いた傷は、必ず補修してください。
- 機器の状態を定期的に点検してください。(必要に応じて再防錆処置や部品交換などを実施してください)

### ■メンテナンス時の留意事項

- 機器のメンテナンスを十分に行ってください。
- シーズンオフなど長期間機器を停止する時は、機器にカバーをかけるなどの処置をしてください。

※なお、特殊な雰囲気(霧)に機器を設置する場合は、別途十分考慮する必要があります。

# 資 料

## 3. 仕様比較一覧表

対象製品：空冷ヒートポンプ式パッケージエアコン室外ユニット

適用箇所	素材	塗装仕様(膜厚)	標準仕様		
			標準仕様	JRA耐塩害仕様	JRA耐重塩害仕様
外板カバー	プレコート鋼板 (塗装溶融亜鉛メッキ鋼板)	リン酸亜鉛被膜化成処理	○	○	○
		ポリエステル系樹脂プレコート処理			
		アクリル系樹脂焼付塗装			
		膜厚(外表面のみ)	合計15μm以上	合計30μm以上	合計45μm以上
底ベース	高耐食性メッキ鋼板 (溶融アルミニウム-マグネシウム-亜鉛合金メッキ鋼板)	塗装処理なし	○		
		合金化処理亜鉛鋼板			
		リン酸亜鉛被膜化成処理		○	○
		アクリル系樹脂焼付塗装			
		膜厚(外表面のみ)		合計30μm以上	合計45μm以上
ベース(足部)	合金化処理亜鉛鋼板	リン酸亜鉛被膜化成処理	○	○	○
		エポキシ系樹脂焼付塗装			
		膜厚(全面)	合計15μm以上	合計30μm以上	合計45μm以上
吹出網	軟鋼線材	ポリエチレンコーティング(300μm以上)	○	○	○
電気品箱	亜鉛鋼板	塗装処理なし	○	○	
	合金化処理亜鉛鋼板	リン酸亜鉛被膜化成処理			○
		アクリル系またはポリエステル系樹脂焼付塗装(15μm以上)			
ツケイタ類	亜鉛鋼板	塗装処理なし	○		
	亜鉛鋼板または合金化処理亜鉛鋼板	リン酸亜鉛被膜化成処理		○	○
		アクリル系またはポリエステル系樹脂焼付塗装(15μm以上)			
熱交換器	フィン	エポキシ系樹脂コート処理			○
		アルミニウム	アクリル系樹脂クリア塗装		
側板	亜鉛鋼板	アクリル系樹脂クリア塗装		○	
	合金化処理亜鉛鋼板	リン酸亜鉛被膜化成処理			○
		アクリル系樹脂焼付塗装(15μm以上)			
冷凍サイクル配管	銅管ロー付部	銅管		○	○
	銅管外表面	銅管	○	○	○
送風機	電動機架台	亜鉛鋼板	○		
		合金化処理亜鉛鋼板		○	○
			リン酸亜鉛被膜化成処理		
		アクリル系またはポリエステル系樹脂焼付塗装(15μm以上)			
電動機	アルミダイキャスト	アクリル系樹脂クリア塗装		○	○
羽根	AS-G樹脂	塗装処理なし	○	○	○
バルマウス	PP樹脂	塗装処理なし	○	○	○
アキュムレータ	炭素鋼鋼管	リン酸亜鉛被膜化成処理	○	○	○
		エポキシ系樹脂焼付塗装			
		膜厚(外表面のみ)	合計15μm以上	合計70μm以上	合計70μm以上
オイルセパレータ	銅管	塗装処理なし	○	○	○
外装用ねじ類	ステンレス	塗装処理なし	○	○	○

注記1. ネジ穴、端面部、コーナ部及び板金と板金が重なる部分で、直接露出しない板金部等の塗装膜厚さは、本塗装仕様の塗膜より薄くなります。  
また、外板等の裏面で直接風雨のかからない面の塗装膜厚さは、本塗装仕様より薄くなります。  
注記2. 製品改良のため、予告なしに仕様を変更することがあります。

- 「JRA耐塩害仕様」・「JRA耐重塩害仕様」とは日本冷凍空調工業会標準規格JRA9002(空調機器の耐塩害試験基準)に基づいている。
- JRA9002にも記載されていますが、本仕様品を使用した場合でも万全ではなく、据付上及び維持管理上のご注意を配慮する必要があります。維持管理に関する詳細は下記に問い合わせのこと。

## 4. 問い合わせ先

日立アプライアンス株式会社 技術相談センター TEL 0120-578-011  
(平日 9:00~19:00 休日 9:00~17:00)